

## (1) 外 科

### 1. 研修目標

将来の専門性にかかわらず、日常診療で頻繁に遭遇する外科的疾患や病態に適切に対応できるよう、プライマリ・ケアにおける外科的診療能力（態度、技能、知識）を修得する。

### 2. 研修指導体制

研修指導責任者のもと教員が指導医として外科研修プログラムの遂行、総括的指導及び評価を行う。研修医は主治医の一員として診療グループに属し、医員を含めたスタッフが研修医の指導にあたる。

### 3. 研修指導責任者

研修指導責任者 永安 武

### 4. 研修内容

大学病院では、消化器外科、呼吸器外科、心臓血管外科、乳腺・内分泌外科、小児外科、脳神経外科、整形外科のうちから研修する。

### 5. 研修到達目標

#### 5-1 行動目標

外科研修を通して医療人に必要な基本姿勢・態度を身につけるために、

- (1) 患者・家族と良好な人間関係を確立する。
- (2) 外科診療におけるチーム医療を理解し実践できる。
- (3) 臨床症例を経験し問題志向型能力を高めその対応能力を修得する。
- (4) 安全管理について理解し安全な医療を実践できる。
- (5) 臨床診断と外科的治療に必要な情報を収集する。
- (6) 症例の提示と要約を行い、討論へ参加できる。
- (7) 指導医のもとで診療計画を作成する。
- (8) 医療のもつ社会性について理解する。

#### 5-2 経験目標

##### A 経験すべき診察法・検査・手技

- (1) 基本的な身体診察法  
術前、周術期および救急患者の身体診察を行うことができる。
- (2) 基本的な臨床検査  
術前検査、周術期および重症患者に対して必要な検査を計画し実施できる。
- (3) 基本的な外科手技
  - ① 清潔操作、消毒法、血管確保ができる。
  - ② 局所麻酔ができる。
  - ③ 簡単な縫合、止血、抜糸ができる。
  - ④ ドレーン、チューブ類の挿入を経験しその管理ができる。
  - ⑤ 穿刺法（胸腔、腹腔）を経験する。
  - ⑥ 中心静脈ルートの確保を経験する。
- (4) 基本的な検査手技
  - ① 検査の読影、所見を述べることができる。  
X線検査、CT、MRI、血管造影、シンチグラム、など
  - ② 術前術後の検査手技について自ら経験、介助、所見を述べることができる。（内視鏡検査、超音波検査、造影検査、気管支鏡、穿刺細胞診など）
- (5) 基本的な治療法
  - ① 薬物の作用、副作用、相互作用について理解し、薬物治療（抗菌剤、副腎皮質ス

テロイド、解熱剤、鎮痛剤、抗凝固剤を含む。)ができる。

- ② 病態に応じた輸液療法を計画し実施できる。
- ③ 輸血の効果と副作用について理解し、実施できる。

(6) 医療記録

- ① 診療録の作成ができる。
- ② 手術症例の提示と要約ができる。
- ③ 手術所見を理解して記載ができる。
- ④ 臨床所見と病理所見を対比し病態を理解する。
- ⑤ 検査および手術・治療に関するインフォームドコンセントを経験する。

B 経験すべき症状・病態・疾患

予定手術症例のほかに外科外来および病棟で遭遇する以下の病態を経験し、適切な処置が行える。

(急性腹症、外傷、ショック、心肺停止など)

C 救急医療の経験

救急外来および外科病棟において緊急処置を要する病態に対して以下の処置を実施できる。

(気道確保、人工呼吸、心マッサージ、気管挿管、除細動、ルート確保、採血法(静脈、動脈)、導尿など)